

地域プラットフォームとしての交流の場の役割に関する 研究—北千里地域交流会を事例として

久 隆浩¹

¹正会員 近畿大学教授 総合社会学部環境系専攻(〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1)

E-mail: hisa@socio.kindai.ac.jp

本研究では、地域における交流の場の意義と効果について、吹田市北千里地域交流研究会を事例に調査・分析した。ネットワーク形成には呼びかけの場や機会が必要であるが、地域における交流の場がプラットフォームとなり、さまざまなネットワーク活動へとつながっている。参加者の意見から以下の点をあきらかにできた。①交流の場は、気づきの場、連携の場、として機能している。②交流の場が参加者の気づきを促し、主体性を高める場となっている。③立場や価値観、意見の異なる多様な参加者が参加するほうが、気づきを高めることができる。④気づきを楽しむ参加者は、自らが発言することがなくても、人の話を聞いているだけで満足感、充実感を感じている。⑤交流の場を活性化させる条件としては、参加者の主体性の高さと強制されない自由な雰囲気、が大事である。

Key Words: *community planning, community participation, collaboration, facilitation, network society*

1. はじめに

ネットワーク社会と呼ばれて久しいが、インターネットの普及もあってようやく本格的なネットワーク社会が到来した。ネットワーク社会では、ネットワーク型の活動が求められるが、そのための重要なしくみとして情報交換の場や機会づくりがある。ネットワーク、つまり「つながり」は「呼びかけ」から生まれる。「こんなことをしてみたい」という呼びかけに対して、「おもしろい、一緒にやろう」という仲間が生まれ活動に発展していく。また、「こんな人をさがしているんだけど」という問いかけに対しては、「私の知り合いにいい人がいるから紹介しよう」という反応があって、新たなつながりへと発展する。

こうした呼びかける場を地域の中でつくりたいかとの思いで筆者らが始めたのが「まちづくり井戸端会議」である。2001年10月に始まった八尾市東山本小学校区の「まちづくりラウンドテーブル」と吹田市北千里地域の「北千里地域交流研究会」はすでに180回を超している。「まちづくり井戸端会議」は地域単位で月1回開催される情報交換の場であるが、出席をとらず自分の都合に合わせて参加できること、議題を前もって設定せず参加者が話題を投げかけ合って話を展開していくこと、無理に話をまとめたり結論や結果を求めないこと、という原則を大切に運営している。まさしく「井戸端会議」であり、参加者の自発性や主体性を大切に集まりである。

2. 研究の目的と方法

本論文では、実際に、地域における交流の場としての「まちづくり井戸端会議」が、どのように効果を発揮しているのかを、大阪府吹田市で開催されている北千里地域交流会を事例に、分析を行なう。北千里地域交流会の概要は次のとおりである。

北千里は千里ニュータウンの地区センターのひとつである。商店会が商業活性化のための方策を検討するなか、シールポイントを地域活動支援に還元する事業をおこなうことになった。いわゆる買い物シールは、従来金券と交換したり、抽選によって景品があたるといった利用の仕方をおこなっていたが、地域との連携を深め客足を増やすためにたまったポイントを地域活動支援に使えるようにしようという発想が持ちあがった。地域版ベルマーク運動である。この事業が、近畿経済産業局が主体となったコミュニティサービス展開のためのモデル地区となったのを契機に、商店会が呼びかけ交流会の開催となったものである。交流会の参加者は、商店会のメンバーのほか、公民館長や地域活動団体の役員、地域にある小中高の教員、小中学校PTA、福祉活動を担っているNPO、環境活動を展開している市民、大学生など多様なメンバーが、月に一度定例的に集まり情報交換を行っている。

本論文の分析資料は、2005年12月3日に行なわれた第50回の地域交流会の議事録である。50回を記念して、当日の参加者に、交流会に参加した経緯や交流会の感想、交流会を契機としてどのような動きにつながったか、等

表 1 参加者の意見内容の概要

参加者	参加者の意見	意見分類
A	商店街は地域の方々や市民活動を知らなかったのか、がわかった	気づき
	この会をやっていなかったらこんな素晴らしい沢山の方々に会う機会がなかった	連携
B	サラリーマンのときは地域を見つめることがなかった。地域で事業をやり出して地域の方にお世話になっていることを実感した	属性
C	僕はこの会を利用していいと思っています	連携
	すごいなという印象を持った	雰囲気
	会を通じていろいろな連携が図れた	連携
D	地域での違法広告物撤去活動に協力頂けた	連携
	打ち水大作戦の連携ができた	連携
E	とにかく知っている人に会を紹介した	連携
	なぜここがいいかと言うと、仕事を担わなくてもいい、宿題がない、情報交換の場であること	雰囲気
	いろいろな触発がある	気づき
	ここに触発されて自分も地域で活動をはじめた	気づき
F	自分自身の活動分野以外の大切な情報が頂ける	気づき
	このつながりの中で地域通貨が立ち上がった	連携
G	地域で集いの広場事業を立ち上げた	属性
	地域のどこでだれが暮らしているかが見えないのでこのような場が参考になる	気づき
H	千里山でも交流会がはじまった	気づき
I	手帳にも優先順位をあげて書き込んでいる	雰囲気
	飛び交っている情報を聞くと元気付けられる	気づき
	ここで仕入れた情報を他の地域で話す結構受ける	気づき
	何かありそうという期待感やわくわく感があるから来ている	雰囲気
J	色々な人のそれぞれの思いが伝わってくる	気づき
K	竹の活用で竹の会と北千里高校がつながった	連携
	阿波踊りグループと竹の会がつながり、竹の太鼓ができた	連携
	色々な出会いがあるからありがたい	連携
L	サラリーマンでは体験できないいろいろな人の視点の話が聞ける	気づき
	大学時代、私も地域活動をやっていたことを思い出した	属性
M	地域に馴染んでなかったが、ここに来ていろいろなつながりができた	連携
	女性のパワーに吃驚している	雰囲気
	内面的に触発されている	気づき
N	これまでいろいろな地域活動を担ってきた	属性
	参加者が素晴らしい人ばかり	雰囲気
O	新聞の商店街活性化の記事を見るようになった	気づき
P	自分の存在感はどこにあるのか、疑問に思った。会社でもない、家庭でもない	属性
	これからは地域活動に参加し、努力していきたい	属性
	子ども 110 番の家の登録が増えた	連携
Q	自宅の集合住宅の集会所の活用方法のヒントになる	気づき
R	ヒメボタルサミットの運営費用の助成を得た	連携
	打ち水大作戦の連携ができた	連携
	古江台中学校にソーラー発電機をつけることができた	連携
S	できることでお手伝いしていきたい	連携
T	自由参加、自由発言がありがたい	雰囲気
	携帯電話の地域安全情報システムができた	連携
	古江台中学校にソーラー発電機をつけることができた	連携
U	夢やそれぞれの思いを語り合ったらいいところが気に入った	雰囲気
	みなさんの話を聞いて参考になっている	気づき
V	世界を股にかけ仕事をするよりも、地域の人と仕事をしたかった	属性
	自分の考え方を変えることができた	気づき

を話してもらった。これを、交流会についてのグループインタビューと位置づけ、分析を行う。当日の参加者は 26 名である。このうち、当日はじめて参加した 4 名を除いた 22 名の発言をデータとして利用した。発言内容の要点を一覧にしたものが表 1 である。

3. 交流の場の効果

参加者の発言を分類することによって交流の場の効果

を分析すると、①気づきの場、②連携の場、の 2 つの効果、が見出せる。

①気づきの場としての効果

参加者の発言から読み取れる交流の場の効果としては、まず、「気づきの場」となっていることがわかる。

「いろんな触発があるので、それじゃあんなこと自分でしてみよう。こんなこと自分でやってみよう、と自分のサイズで自分の企画ができるのがうれしい」「(会に

参加して) 私自身の変化ということで、内面的な変化、いろいろと触発されている」というように、他の参加者の発言を聞くことによって、触発されるという意見が聞かれた。また、「(今までは自分が活動してきた) 福祉の分野以外のことは何も見えなかったんですが、この会に誘っていただいて、学校だとか地域問題だとか、そして環境の問題だとか、いろんなことをここで聞く中で、自分自身の福祉以外の部分のとても大切な情報を頂ける」という声のように、異分野で活躍されている方の情報が自分の刺激になっているという意見があった。さらに、「この交流会に入って、別に新しいことをやったということはあまりなかったかなと思うんですが、ただ私がこの場において、企業で働いていたサラリーマンではなかなか体験できないこと、いろんな方から話を伺うことができる。みんな自分の視点で話をされるわけですが、その視点というのが、NPO 法人で活動されている方、病院の先生をしていらっしゃる方もいるし、学生さんもいらっしゃる、もちろん商店の方もいらっしゃる、いろんな視点から同じテーマについてしゃべる。それがいろいろな立場で、「あ、こういう考え方もあるんだな、ああいう考え方もあるんだ」というふうに接していただけることが勉強になり、そういう意味で居心地がよくて為になるというので来ています」というように、同じテーマで語りあっても、立場の違いでいろいろな意見が交換できることによって、勉強になるという効果も出された。「交流会に伺うと、視野が広いというか、フィールドが広いので、いろんな方のそれぞれの思いが伝わってくるものがたくさんありますから、自分の中でいい経験になると思います。」

こうした自分の中にいろいろな気づきが生まれるだけでなく、それを契機として、自らの活動にむすびつけた展開も報告された。たとえば、「私も商業者の方に触発を受けて、地域で小さいながらコミュニティビジネスを始めることも大事だなあと、今地域で一生懸命こつこつとバザーを毎月しています」という報告や、「ここに伺った喫茶店の方が、自分の店で交流会を開きたいとおっしゃっています」という報告があった。また、「今自分が住んでいる集合住宅で、集会場でどういふ企画をしたらみなさんに来てもらえるのか、模索をしているところですが、みなさんだったらどのように対応するか、いろんな発想をお聞きして吸収していくのにこの場はありがたいなということで参加しています」というように、自らが抱える課題について、参加者の発言からヒントをもらえる、という声も聞かれた。

②連携の場としての効果

交流の場の第二の効果としては、連携の場としての機能がみられた。地域交流会を通じて、この 4 年でさまざま

な連携が生まれてきた。「この 50 回のうちに、ここでしゃべりきれないくらいのこと動いたと思います。たぶんこの会をやってなかったら、こんな素晴らしい皆さんの方々に会う機会がたぶんなかったと思っています。それぞれみな活躍しているのに、お互い知るチャンスが全然なかったのが、ここで自由闊達にお話頂くことによって「ええ、こんなことされているんだ。じゃ、紹介してみようか」とか「こんなことにお困りなんだ。じゃ、やってみようか」というようなことで、ここがいろんな方々の知り合う機会になったというのが一番大きなことなんだろうと思います。」という意見が、連携の場として機能してきたことを物語っている。

公民館長は「じつは私はサラリーマン時代には地域のことについては無関心だった。現在、私は take & take で give ができていない。これから少しずつ皆さんと何かをご一緒にと考えています」と語ってくれた。今まで地域に縁遠かった人にも、この場が連携の相手を探す場として機能している証左である。

具体的な連携事例としては、「北摂のあたりでヒメボタルを調査している市民活動グループが、輪番で「ヒメボタル・サミット」を開催しています。そのサミットの会場の責任を持つのがちょうど 4 年前「すいた市民環境会議」にあたったのですが、そのときに配布するプログラムの印刷の費用が足らなくなった。そのときに、交流会で事情を話したら、商店会から商業代として費用を出して頂きました。」という事例、「この夏に大阪府茨木土木事務所の呼びかけで「すいた市民環境会議」が大阪府と吹田市と協同で「打ち水大作戦」ということで打ち水イベントを行なったときにも、この会で呼びかけさせていただいて、「千里竹の会」にたくさんの竹の柄杓をつくって頂きました」「「打ち水大作戦」には「新小川はなの会」で一緒に加わらせていただきました」という事例など、交流の場での呼びかけに呼応して、連携が生まれた。

また、千里ニュータウンの緩衝緑地に繁茂している竹を市民で間伐している「千里竹の会」の連携は、さきほどの「打ち水大作戦」だけでなく、「竹の活用もいろいろ考えていけたらということで、北千里高校の竹炭作りをお手伝いしたり」「ここで知り合いになった神戸の阿波踊りの「神戸本山ちるど連」の方から、竹の筒で太鼓をつくってほしいと言われてつくってさしあげました」というように、交流会を通じていろいろと広がっている。

さらに、地域活動での連携も進んでいる。たとえば、小学校の PTA 会長からは「子ども 110 番の家」の登録が少なかったのですが、商店会の方にもご協力頂き、非常に旗が目立つようになって心強く思っているところで」という報告があった。また、中学校長からは携帯メ

ールを使った地域安全情報システムについての連携について、次のような報告があった。「(地域の安全情報を流そうとしても)自治会に入っていない人が結構多いんですよ。中学校から情報を流すと、保護者には流れます。しかし、それ以外にはどのように流すのか。これはたいへんなんです。たとえば、青少年対策委員会には入っているんだけど、自治会には入っていない家があったとしたら、流れるところと流れないところが出てしまう。そうしたらお叱りを受ける。私のところに来てないじゃないかと。そんなときに商店会の理事長から「携帯でこんなシステムをつくったんですけど」という話があった。このシステムをお借りして地域の安全情報を流せないかとお願ひしてみた。しかし、商店会は商店会でみんなの了承を得ないといけないのでたいへんだし、学校は学校でたいへん。今どきパソコンの無料メーリングリストを使うと広告が入るのは当たり前だけれど、学校はまだまだそういうわけにはいかない。なぜ商店街なんだということになる。そのあたりは、商店会でうまくやって頂いて、商店会の名前は一切出さないということで乗り切った。アドレスの最後に(商店会の名前である) dios というのがちょっと入っているだけなんです。これで商店会のシステムを使っていることはわかる。こういうシステムを作るのには一定の費用がかかるのですが、それを商店会で引き受けてくださっている」

今回調査対象とした交流会は、市民環境会議が進めている「ソーラータウン構想」の一環として中学校の校庭にソーラー発電機を設置したばかりであったので、その話が関わった複数の方々から報告された。「中学校の校庭にビオトープをつくったら、(池の水の循環のために)水を流すようになったんです。(環境にやさしいビオトープをつくったのに)水流すのに電気使ってポンプで水を流してしまうと何をやっているのかわからない。そりゃないじゃないか、と思っていたら、環境会議の方からソーラー発電機つけることができますよ、という話があった。すぐにやってみましょう、という話になりました。」「このあいだもガンバ大阪のサッカーの試合の際のパブリック・ビューイングのときに、(ソーラー発電機設置の)カンパ箱を回していただきました。」このように、お互いの思いが重なって支えあい、つながりがすぐにできていくのが、交流の場の効果といえる。これは場が情報交換の機会になっているだけでなく、4年も続けていることによって参加者同士に信頼関係が生まれていることも影響していると考えられる。情報交換の場だけでなく、信頼関係の構築の場としても、交流の場は機能している。

4. 場における交流促進の条件

このように、気づきや連携の場となっている交流の場であるが、なぜ、円滑に交流が促進されるのか、その条件となっていることについても、参加者の意見の中から抽出できた。

①参加者の主体性の高さ

まず第一の条件として挙げられるのは、参加者の主体性の高さである。「こんなことにお困りなんだ。じゃ、やってみようか」というように、だれかが課題を投げかけた場合に、私には何ができるかを積極的に考え動ける人が多く参加しているから、連携が生まれ課題解決に向かって動くことができている。「参加してまず感じたのは、すごいな、ということでした。」「こういう会がありますとお聞きして一回出てみましたら、素晴らしい人ばかりで、私自身が2回と出てこれるのかしらと何か未熟な人間だと言うのがよくわかりました。」「この会に来ての感想は、とにかく吃驚しました。すごい。特に女性のパワーに圧倒されました。」という、参加者の主体性の高さへの驚きの声が挙げられていた。

こうした参加者の高い主体性とそれによって参加者からもたらされる情報の質の高さが、また人を惹きつける。「やっぱり面白いから来るんですね。できるだけ手帳にも優先順位をあげて付けています。できるだけこの日に別の予定を入れないようにしています。来てみて、いろいろ情報が飛び交っているのを見ますと、これ本当におもしろいなあ、と、元気付けられる気がします。」「来たらか何かありそうだ、という期待感、わくわく感があるから来ています。」という意見がそれを物語っている。

②強制されない自由な雰囲気

交流を活性化させる第二の条件は、交流会の原則である「来れる人が来れるときに来る」「肩書きを背負って発言しない」「自分で手を挙げない限りは活動を強制されない」といった、自由で自発性を尊重した雰囲気である。「いろんな会議に出ると、どうしても宿題をえてしてしまうのですが、ここはそれがいい。これはこのよいメリットだと思います。」「別にものごとを決めなくてもいい。みんなで夢を語り合ったり、それぞれの思いを語りあったらいいな、と思いました。」という意見が典型である。自由な雰囲気の大切さは、つぎのような中学校長の意見から伝わってくる。「(この会は)これまでの既存の会議と全然違いますね。自由に来て、自由に帰っていったらいいし、自分のことを述べて、だからといって何か責任があるわけではない。まあ、言いたい放題、あとは自分の責任でとりあえずお互いコミュニケーションとったらいよいよ。そういう自由闊達な場という

のはありがたい。他のところにいったら、言った責任を取らなければいけない。「あなたは校長としてどうするんですか」と、言ったら言ったで必ずそれが残ってくる。」

これは先ほどの参加者の主体性の高さとの関連が必要な条件でもある。主体性の低い人が好き勝手に発言すればそれは単なる無責任な意見となってしまう。しかし、交流会の参加者は主体性の高い人であるから、自由に発言しても、その責任は自分たちで自発的に負うことができる。そこが鍵である。

5. まとめ

以上の結果をまとめ、さらに考察を加えると次のようなことがいえる。

- ① 北千里地域交流会を事例に交流の場の効果を検証したが、その結果、交流の場は、気づきの場、連携の場、として機能していた。
- ② 合意形成や意思決定を行い組織ぐるみで活動を展開してきた従来の活動形態とは異なり、交流の場を契機とした活動は気づきによる自発的なものとなっている。交流の場は、参加者の気づきを促し、主体性を高める場となっていることがわかる。すなわち、活動を *facilitate* (促進) する場ということができる。
- ③ 立場や価値観、意見の異なる多様な参加者が参加するほうが、気づきを高めることができる。こうした意味では、参加者の多様性も重要である。また、厳格な合意形成や全員による意思決定を行わない場であるからこそ、違いを認め合い、気づきにつなげる心のゆとりが持てるといえる。
- ④ 気づきを楽しむ参加者は、自らが発言することがなくても、人の話を聞いているだけで満足感、充実感を感じている。また、主体性の高い人々の参加が多いことによって、話の内容も質が高くなっており、それが聞き手の満足感にむすびついている。
- ⑤ 連携の場としての交流の場は、従来個々に活動を展開してきたメンバーをつなげる役割を果たしたり、補完しあうことで活動を実現させること、地域のネットワークを持ってなかった人々のつながりづくりを促進させること、に役立っていた。
- ⑥ これからの社会において、自律と連携が重要であると言われるが、気づきは自発的な展開を促進させることであり、まさしく「自律」を促すことでもある。また、連携の場としての交流の場は、連携を生み出す場であり、そうした点からも交流の場の意義は大きいと考えられる。
- ⑦ 交流の場を活性化させる条件としては、参加者の主体性の高さや強制されない自由な雰囲気、が大事であることがわかった。これらは互いに関連しあっている。交流の場では、自らの発言や行動には他律的な強制は行われず自発的なものとなるが、参加者が主体性や自律性が高いことによって、自らの責任で発言や行動がなされている。これが意見交換を秩序あるものとしており、言い放しの状態ではなく多くの課題を解決に向かわせていくこととなっている。こうした点も自律的であるといえる。
- ⑧ 表1の「意見分類」を参加者ごとに改めて見ると、気づきを求めて交流の場に参加してきた人と、連携を求めて交流の場に参加してきた人に分かれていることがわかる。交流の場は、すべての参加者に同じように意義を感じさせているのではなく、参加者によって感じ取る意義が違い、多様化・多面化していることがみてとれる。

STUDY ON ROLES OF PLACE FOR EXCHANGE AS PLATFORM IN NEIGHBORHOOD - IN CASE OF KITA-SENRI AREA EXCHANGE MEETING IN SUITA CITY

Takahiro HISA

In this research, we analyzed the roles of the place of exchange in neighborhood, in case of Kita-senri area exchange meeting in Suita City. As a place and/or opportunity of exchange are required for network formation, various network activities are deployed from the platform where people gather. Followings are clarified. 1) The place of exchange functions as a place to notice, a place of cooperation. 2) A place of interaction urges participants to notice and enhances participant's independence. 3) It is possible to increase awareness by participating by various participants with different places, values and opinions. 4) Participants enjoying awareness feel satisfaction and fulfillment just by listening to people's speech even if they do not say themselves. 5) As a condition for activating the place of interaction, it is important that the ownership of the participants is high and the free atmosphere is compelled.